

---

## 目次

---

### 【01】年頭所感

### 【02】事業報告

- 平成26年度 災害時通訳・翻訳ボランティア研修
- 高等教育機関留学生担当者への防災ワークショップ
- 外国人のための防災訓練の開催
- 第2回大阪府自治体国際化推進連絡会議の開催
- 第17回ふれあい交流祭り
- オリオン寮地域交流会

### 【03】さようなら OFIX

### 【04】大阪府外国人情報コーナー

- 相談員ネットワーク会議ー技能実習生制度について

### 【05】JICAボランティア活動報告

- 世界で活躍する大阪人  
青年海外協力隊 (キルギス共和国／観光業) 今津 貴雄

---

## 【01】年頭所感 (公財) 大阪府国際交流財団 理事長 堂本 佳秀

---

あけましておめでとうございます。お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、大阪府の国際化戦略の推進及び当財団事業にご指導、ご協力いただきありがとうございました。

21世紀のIT革命とともに、グローバル化の波は急ピッチでわが国に押し寄せています。

私の通う英会話学校にも小学生の姿が多くみられるようになりました。ともすれば、私たちは、グローバル化への対応を早期英語教育の側面でしか捉えられていないところがあります。優秀な海外人材の養成とともに、地方自治体やその出資にかかる国際交流協会は、「内なる国際化」を目標として、日常の生活相談や災害時において、広く外国人をwelcomeできる社会を形成していくことが求められております。

このため、平成27年度からスタートする新たな3か年のOFIX中期経営計画(案)においては、①国際理解教育の小中学校への拡充、②外国人相談窓口の市町村での開設促進、③災害ボランティアの拡充を3本柱として推進してまいりたいと考えております。

まず国際理解教育については、今後の早期英語教育の導入をふま

え、世界の文化と言語への理解を深める外国人サポーター派遣事業へのご理解をお願いいたします。

次に外国人相談窓口の設置されている市町村は、まだまだ数が少ないのが現状です。暮らしの相談等の第一次的な相談は、住民に身近な市町村でぜひ相談窓口を設置していただきたいと考えております。このための試行実施となる一日相談窓口の開設等につきましては、市町村とOFIXとで共催事業を実施するなど、できるかぎりのサポートをしてまいります。

最後に災害ボランティアの拡充につきましては、将来の東南海地震に備えて地道なマンパワーの確保が課題です。日本人だけの「暗黙の了解」を越えて、危機にあって如何に外国人の方に情報伝達ができるか、自治体及び財団として国際社会への説明責任が問われているように思います。

グローバル化の波は、年々高くなってきておりますが、今後とも着実な歩みを進めてまいりたいと思います。

なお、昨年に引き続き、賛助会員をはじめOFIXボランティアの方への年賀状は、今年も、この年頭所感に替えさせていただきます。

---

## 【02】事業報告

---

### ■ 平成26年度 災害時通訳・翻訳ボランティア研修

大阪府で災害が起こった際に、外国人の方への情報提供等の多言語支援を担う災害時通訳・翻訳ボランティアの養成を目的とした研修を11月5日（水）に大阪府及び近畿地域国際化協会連絡協議会との共催で実施し、参加者は7言語31名となりました。

この研修は平成23年度から実施していますが、今年度からは災害時の通訳・翻訳ボランティア活動に関する流れや内容、支援を行う範囲等をふまえ、より実際の活動のイメージができるように従来のロールプレイに加え、ワークショップでは、災害時に外国人の方が感じる不安を再確認するとともに、災害時において、外国語支援以外にもどのような活動ができるのかを学びました。

以下は参加者から寄せられたコメント（一部抜粋）です。

・大地震・津波発生・・・今まで他人事のように思っていたことが突然私たちを襲ったとしたら、そのパニック状態のなかで、私たちは即座に何ができるのでしょうか？ましてや文化、習慣、言葉の違う異国で、外国人の方々にとっては深刻なる問題です。国際化していく地域における災害時の在住外国人支援の取り組みとして、ボランティアによる多言語通訳・翻訳支援体制の確立は急務となっております。その一環として模擬通訳体験を含めたボランティア育成研修は有意義なものであったと思います。

・午前・午後ともに充実したプログラムで、災害時の対応について深く学ぶところがありました。

午後のワークショップでは実際の事例をもとに対処方法を考える訓練を行いました。ボランティア通訳だとしても、ただ言葉を訳すだけでいいのか？緊急時にはさらにふみ込んで相談者にかかわりあ

っていく必要があるのではないかと？デマと本当の情報を見分ける方法は？など考えれば考えるほど疑問が湧いてきますが、「対応方法に正解はありません」という講師の言葉が印象的でした。

災害は起こらないのがいちばんですが、万一のときに少しでも外国人被災者のストレスを減らすお手伝いができるよう、今後もこのような研修が行われるといいと思いました。

・私はこの研修に参加する前は、災害時通訳・翻訳ボランティアというのは「何か災害が起こった時に、救助やサポートにあたる日本人からの連絡や指示を外国人に外国語で伝え、外国人からは質問や助けの言葉を日本人に日本語で伝える役割の人」というイメージしか持っていませんでした。ですが、過去の大震災の際に、実際に起こった外国人の状況を例にしたケーススタディと、その支援活動に実際に従事された講師のお話を聴いて、災害時通訳・翻訳ボランティアというのは、「災害時多言語支援センターのスタッフをサポートする人」として、いろいろな役割をこなさなくてはならないということ学びました。今までイメージできなかった災害時の外国人の状況を、ケーススタディを通して、少しイメージできるようになった気がします。

## ■ 高等教育機関留学生担当者への防災ワークショップ

11月14日（金）、マイドームおおさかにて災害時の留学生支援体制を考えるためのワークショップを開催しました。参加者は23名で、府内の大学や専門学校の留学生担当者をはじめ行政や国際交流協会等、幅広い分野からご参加いただきました。

まず前半では、留学生支援の現場で東日本大震災からの復興・復旧プログラムに携わっておられる岩手大学教育推進機構国際教育センター准教授の尾中夏美氏を講師にお迎えし、「東日本大震災時における留学生支援と復興・復旧 - 被災から学び明日への一歩に繋げる教育活動」の演題でご講演いただきました。

講演では、震災直後の大学生活や街の様子を学生たちが自ら撮影して作成したYoutube動画の放映や、平成24年から3年間にわたって実施された国際研修のスライド紹介などをまじえ、学生主体の復興活動などさまざまな取り組みについてお話いただきました。現場のリアルな活動の様子がうかがえる内容であり、また、学生自身が自分たちの声を発信することで伝わるのがたくさんあるということにも気づかされました。

その後、参加者全員が4つの班に分かれて、「災害時における留学生の安否確認について」のテーマで意見交換会を行いました。教育機関の担当者だけでなく、行政や国際交流協会の職員も各班に分かれ、それぞれの取り組みを発表したり、先進的な学校の留学生対応事例を聞いたりするなど、活発な意見交換が行われました。また、最後の全体発表の時間には、各校の取り組みのまとめや課題の解決方法についてそれぞれの班代表が発表し、参加者は興味深く聞き入っていました。講師からは、「学校により状況は異なるが、安否確認方法は自分の学校の状況に合わせて複数用意しておくほうがよい。SNSだけに偏るのではなく、普段からの留学生同士の友達関係を把握しておくなど、アナログな方法が役立つ場面も多い。」とのアドバイスがあり、会場のあちこちで大きくうなずく姿が見られました。

参加者アンケートでは「各校の取り組みなどが聞けて参考になりました。」どこの学校や専門学校も同じ悩みを抱えていた。」といった趣旨の感想が多く、このような場を持つことの意義を改めて感じました。

## ■ 外国人のための防災訓練の開催 泉大津市企画調整課・危機管理課

泉大津市、泉大津国際交流協会、OFIXの共催事業として、11月22日（土）に泉大津市役所にて外国人のための防災訓練が実施されました。参加者は合計41名で、うち外国人参加者は12名（4カ国）でした。

泉大津市危機管理課職員による防災セミナーでは、この日にあわせて作成された多言語の防災ハンドブックを使用し、参加者は真剣な眼差しで、ハザードマップ上に示された最寄りの避難所などを確認していました。続いて、泉大津市消防署による応急救護訓練、消火訓練、通報及び避難訓練が行われ、AEDと人形を使用した心臓マッサージや、水消火器を用いた消火訓練などの実地体験を組み込んだ内容に、参加者はとても熱心に取り組んでいました。

また、避難所体験と非常食体験を兼ねたランチ交流会では、外国人参加者と日本人参加者が一緒にブルーシートに輪を作って座り、お互いの国の話や地域の話をして交流を深めました。

アンケートでは、「実際に講習を受けることとパンフレットで学習することとの違いを実感した。」「今日は日本のことをたくさん知ることができた。」などの声が寄せられ、訓練の満足度については、大部分の方がたいへん満足又は満足と回答しました。

## ■ 第2回大阪府自治体国際化推進連絡会議の開催

11月28日（金）に、大阪府主催の第2回大阪府自治体国際化推進連絡会議が開催され、16団体16名の市町村・国際交流協会の担当者が参加されました。

冒頭、大阪府国際課の志村総括補佐から「OFIXが現在策定中の次期中期経営計画においては、相談事業や国際理解教育、近年重要性が高まっている外国人を対象にした災害対策事業に重点的に取り組む予定である。これらを効果的に進めていくには、関係機関のより一層の協力・連携が必要であり、市町村、国際交流協会のみなさんのご協力をお願いします。」との挨拶がありました。

その後、OFIXから平成27年度から3年間のOFIX中期経営計画（案）の概要説明に続き、平成27年度に実施予定の3つの事業についての説明を行いました。

1つ目の「国際理解教育（外国人サポーター派遣事業）」は、小学校3年生からの英語教育の導入検討を受け、先駆的な取り組みを行う学校にターゲットをあてながら、高校から小中学校への対象のシフト及び新規校の開拓を目標として掲げており、小中学校へのPRの協力依頼等を行いました。

2つ目の相談事業に関しては、暮らしの相談等の一次相談は市町村で外国人相談窓口を設置して対応いただきたいため、その取り組みの第1歩として、OFIXとの共催による一日相談会の開催

を呼びかけました。最後に「災害ボランティア」については、今後30年以内に70%の確率で起こると予想される東南海地震に備えて拡充を図っていくこととし、災害ボランティア研修用パンフレットの作成や来年度の研修の予定について説明しました。

会議後のアンケートでは、「春に一日相談会の開催を検討したい」、「災害ボランティアについて現状がわかり参考になった。」といった意見のほか、「今後、市と連携していくに当たり貴重な情報として活用したい。」との声も寄せられました。

## ■ 第17回ふれあい交流祭り

あ11月23日(日)に関西国際センターで第17回ふれあい交流祭りが盛大に行われました。この祭りは独立行政法人国際交流基金関西国際センターで日本語習得に励んでいる研修生と、地域の住民がふれあいを持つきっかけの場づくりとして、関西国際センター研修生交流支援協議会(岸和田以南の10の国際交流団体及び当財団で構成)が企画したものです。お祭りの雰囲気味わってもらえるように、各国際交流団体による多彩な催しものやブースが用意されました。

今年は泉南太鼓塾による和太鼓のパフォーマンスで開会し、研修生たちがモデルになって、民族衣装のファッションショー「田尻コレクション」が行われました。各ブースでは茶道、着付け、切り絵、紙人形、絵手紙などがあり、研修生たちは日本の様々な伝統文化を体験することができました。外国の方にとって日本といえば「侍」というイメージが強いせいか、一番人気は居合道でした。

その一方、研修生たちによる国紹介ブースも設けられ、お土産品からエスニック料理の試食まであり、地域の方々が興味深々に研修生たちとコミュニケーションを取りながら、それぞれのブースを回りました。

昨年からはじめた南の地域のゆるキャライベントは今年も大人気でした。今年は田尻町のたじりっち、岬町のみさっきーと泉佐野のイヌナキンが参加し、会場が盛り上がりました。

## ■ オリオン寮地域交流会

12月20日(土)に大阪府堺留学生会館オリオン寮で、地域交流会を開催しました。オリオン寮生をはじめ東上野芝2丁自治会の皆様併せて約50名の賑やかなイベントでした。

健朗会メンバーによる歌や書道の指導のほかに、和泉市の大橋様が尺八によるアメージンググレイスを披露。吉田呉服店の吉田様が留学生に着物の着付教室。試着した留学生は「初めての着物姿で、とても感激です。」と大感激。

また、北堺警察署の小寺警部補からは、道を歩く時にはひったくりに注意をするなど、防犯についてのお話をいただきました。

今回は、OFIX職員が大鍋に大量に芋煮を作りましたが、あっという間になくなってしまいました。参加者の皆さんからは、たくさんの笑顔があふれていました。

オリオン寮では、毎年春と冬に寮生と地域住民の方々との地域交流会を開催しています。

---

### 【03】 さようなら OFIX キャロリン・ヒートン

---

こんにちは、2012年10月からOFIXで非常勤職員として勤めてきましたキャロリン・ヒートンです。1月からカリフォルニアに行くことになり、12月末をもって退職することになりました。

私は東京生まれの兵庫育ちのアメリカ人です。公立の小学校を出たのち、家で通信教育を受け、関西大学で学士（東洋史）、神戸大学で修士（言語学）を取りました。このように母語が二つある背景を活かし、OFIXでは大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業をはじめ各事業の翻訳・英文編集・通訳などに携わってきました。留学や通訳者養成学校に通った経験があるので通訳ボランティア育成事業でもお手伝いさせていただきました。特にボランティアの皆さんは世界に興味を持ち、積極的に外国出身者とかかわろうとする国際的な感覚を持った方ばかりで、皆さんの意識の高さに刺激を受けることが多かったです。

大阪も国際化が進んでいます。英語をはじめとした外国語が使える人材が必要な時代なのでぜひ外国語の勉強にチャレンジしてみてください。外国語に触れてみるとさらに日本語のよさも新たな視点から再発見できるかもしれません。短い期間でしたが、豊かな出会いと学びに満ちた2年間でした。ありがとうございました！

---

### 【04】 大阪府外国人情報コーナー

---

#### ■ 相談員ネットワーク会議——技能実習生制度について

「技能実習生について知ろう」というテーマで、大阪府行政情報提供窓口相談員ネットワーク会議を11月27日（木）に開催し、講師として（公財）国際研修協力機構所長の高橋幸雄氏と弁護士の四方久寛氏をお招きし、それぞれ「技能実習生の制度について」と「技能実習生と地方自治体」というテーマでお話いただきました。

高橋講師からは、外国人技能実習生制度の概要をご説明いただきました。技能実習生制度とは途上国への技術移転を目的として、外国人に日本で働きながら技術を習得してもらうために設置されたものです。新制度では原則2か月の講習ののちは「研修」ではなく、労働者としての労働災害、労働時間、有給休暇など現行労働法が適用されるものです。

四方講師から、実際の労働現場に焦点をあて、労働関係法規違反や入管法違反、さらには人権侵害などのケースが報告されました。現状を知るなかで、サポートする側としての問題喚起の場となりました。

#### 【大阪府外国人情報コーナー】

対応時間 : 9時から17時30分（月曜から金曜）

相談直通電話：06-6941-2297

対応言語：英語、韓国・朝鮮語、中国語

ポルトガル語、スペイン語、タイ語

フィリピン語、ベトナム語、日本語

---

## 【05】JICAボランティア活動報告

---

### ■ 世界で活躍する大阪人

青年海外協力隊（キルギス共和国／観光業） 今津 貴雄

#### 【経歴】

5年間働いた旅行会社を退職後、2013年7月から青年海外協力隊ボランティア（観光業）として、中央アジアにあるキルギス共和国にて活動中

#### 【JICAボランティアに応募した動機について】

大学生の頃からバックパッカーにて開発途上国を旅行したり、現地でボランティア活動などを行っていました。海外にかかわる仕事がしたいと旅行会社に就職したものの、インターネット関連の部署に配属となり、旅行出張システムの販売や、WEB上のネットマーケティングなどを担当し、直接海外と関わる事はありませんでした。学生時代からいつかは開発途上国に住み、生活し、現地の人たちとともに働きたいと考えており協力隊に応募しました。

#### 【キルギスでの生活や活動について】

キルギスは中央アジアに位置する遊牧民族国家です。

日本人とは昔兄弟だったと言われている伝説があるほど顔は日本人ととても似ています。肉が好きな人たちがキルギスに残り、海を求めて行ったのが日本人だとか・・・。

面積は日本の約半分。国土の93%が山に囲まれた山岳大国で、夏にはトレッキングや自然を目的とした観光客が多く訪れ、冬はスキーも楽しめます。

私はカラコルにある大学生ボランティアが運営する観光案内所で働き、学生に対し接客指導やトレッキングMAP、観光情報ツール、ガイドブックの作成などを行っています。また大学で観光に関する授業や日本語を教えたりもしています。

#### 【これからの活動について】

キルギスには透明度世界2位中央アジアの真珠と称されるイシククリ湖や天山山脈の山々、ユルタに泊まりながら馬で移動する遊牧生活を体験できるなど、魅力的な観光素材がたくさんあり、そんな素晴らしい国の事を日本や世界の人々にもっともっと知ってもらいたいです。毎年5月にイシククリ湖の湖岸を走る国際マラソン大会も行われています。ぜひキルギスの雄大な自然を体験しにお越しく下さい。

#### 編集後記

●年末年始といったら年賀状でしょうか。母国フィリピンでは、年賀状を送る習慣はありませんが、日本語を勉強してから私も年賀状を

